

8. ボランティア活動

8-1 しあわせ農場(しあわせの村)の 2022 年までの経過

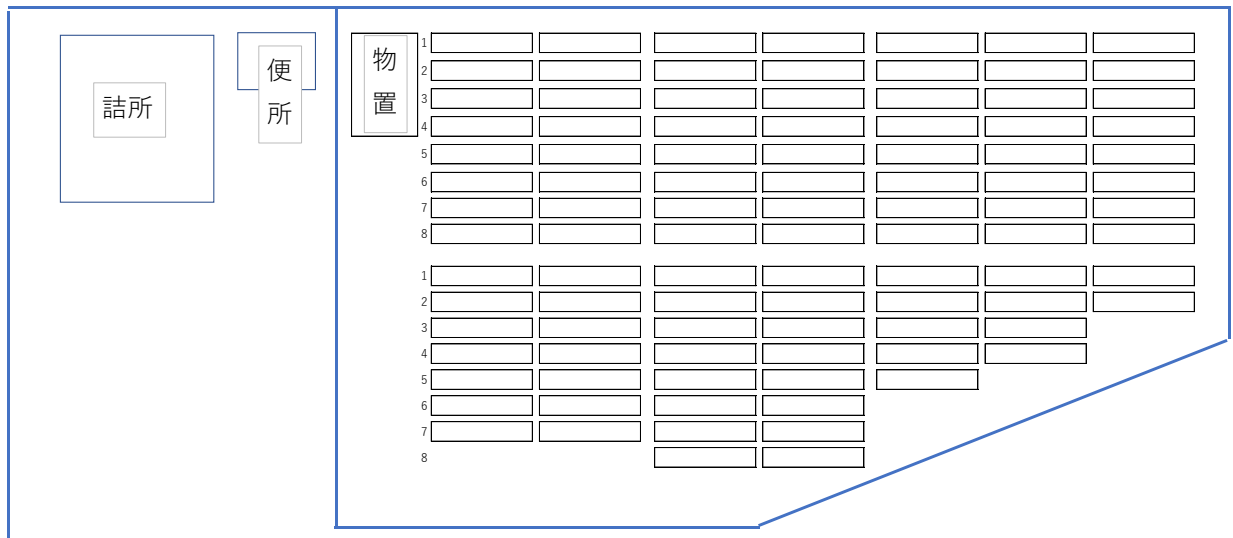
A. しあわせ農場の現在までの経緯

しあわせ農場は元々しあわせの村のユニバーサル農園として運営されていたが、詳しい資料は残ってはいません、現在までの経緯を簡単に整理すると、

- ・2014 年まではしあわせの村のユニバーサル農園として使用されてサツマイモ等の栽培を行った。
- ・2015 年にしあわせの村より保田先生へ農場の運営についての相談、依頼があった。
- ・2016 年から保田先生の指導の下に SGS の現役、OB が参加して有機農法での農場の維持管理を開始した、月に 1 回の作業で畝作り、定植、播種、収穫等を行った。
- ・2016～2019 年はしあわせの村の担当者と SGS のボランティアで農場の管理、運営を行った。農作業は月 1 回プラス α で除草等も対応した。
- ・2020 年から農場の管理運営を（株）ユーヴェが行い、その下でボランティア活動を行う事となった。それと同時に農場は農副連携作業として、障がい者の体験学習の場所となり、平日もかなりの人数が農場で作業に参加するようになり、ボランティアも参加している。

B. しあわせ農場の概要

- ・圃場見取り図 しあわせの村の最南部、明生園の隣接地

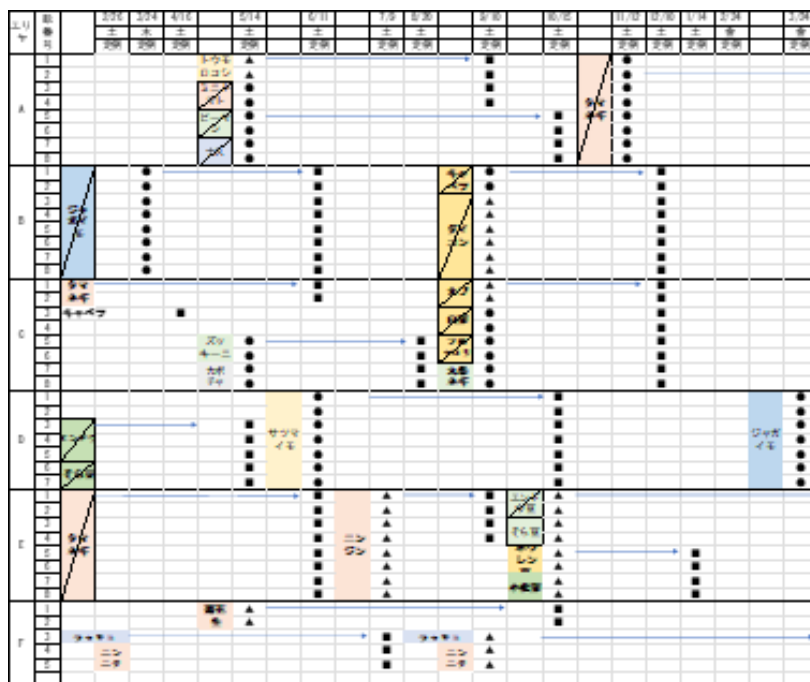


- ・圃場面積：約 700m² ・畝数：93 畝（5mL）
- ・設備：詰所、物置、便所、2 層シンク、農機具洗い場、散水栓（3 か所）他
- ・備品：3 角鋤、平鋤、備中鋤、草刈り機、有機肥料、その他備品

C. 農作業の現状

- ・無農薬、化学肥料の不使用で肥料は完熟牛糞堆肥と保田ぼかしのみを使用する有機栽培、圃場の土は六甲山特有の花崗岩から出来た真砂土の為、養分は無く水はけが良すぎて成長に水分が多くいる作物には不向きである。里芋や枝豆などは収穫が期待できない。
- それでも現状は 24 種類以上の作物を育てて収穫している。

・2022年度に作付けを行った野菜の作付け行程表と作付け一覧表。(2023年度予定)



- ① 作付け行程表を作成、
連作障害を防ぐように計画する
- ② 行程表に従い種苗を手配
- ③ 定例作業日に定植・播種
- ④ 収穫までに除草・剪定等の作業を実施
- ⑤ 穫物は作業員全員に少しでも持ち帰れるようにしている

・農場で栽培している野菜類。(2022年度実績)

NO	品名	品種	NO	品名	品種
1	ジャガイモ	メイクイン	13	ネギ	九条ネギ干しネギ
		男爵	14	キャベツ	潮岬
		アンデス	15	ダイコン	耐病総太り
2	落花生	普通	16	カブ	スワン
3	ナス	千両2号(接木)	17	ニンニク	福地ホワイト
4	ピーマン	トンガリパワー(接木)	18	ラッキョ	
5	ミニトマト	千果(実生)	19	ニンジン	向陽2号
6	スイートコーン	御日様	20	ハウレン草	ゴードン
7	ズッキーニ	緑色・黄色	21	小松菜	サクラギ
8	カボチャ	えびす	22	そら豆	大天
9	サツマイモ	鳴門金時	23	エンドウ豆	グルメ
10	ニンジン	向陽2号	24	ウスイエンドウ	グリーンピース
11	白菜	黄ごころ75	25	タマネギ	ソニック(早生)
12	ブロッコリー		26	タマネギ	OP

D. 今後の活動

- ・国内ではネオニコチノイド系の農薬が多く使われて、我々特に子供たちの健康を害している可能性が高い。また遺伝子操作された食品が多く輸入されている、これらの遺伝子操作の食品が我々の遺伝子に何らかの悪影響が考えられる。今後、そのような情報が入手出来たら速やかに周りに伝達出来る心構えを構築していく。
- ・日本の食糧輸入には黄色信号が点滅している、食料自給率は37%以下の状態で輸入に支障が出る事態になれば、日本国民が飢えに直面することになる。
食料自給力をつけるのは一朝一夕に出来るものではない、我々の農場は小規模で微力ではあるが将来のために啓発活動としても大事な活動と思われる。

8-2 「みんなの食堂」の活動

2017年7月に「みんなの食堂・なかみちこみち」の第1回を兵庫区の中道福祉センターで開催。家庭環境などで普通に食事がとれない子どもや地域の一人暮らしの高齢者など「みんなおいでよ、みんなでご飯を食べればおいしいね」を合言葉にスタートした。

島村千恵子代表が中心になり、神戸市シルバーカレッジの仲間や神戸シルバー大学院の友人たちも協力して、現在では50名前後のスタッフで運営している。

1) みんなの食堂

- ①スタート時点は月1回の開催であったが、2019年からは月2回（第1、3土曜日お昼）開催。
- ②食事前後に紙芝居や将棋、マジックなどのアトラクションで楽しんでもらうように工夫。クリスマスや節分、ハロウィンなど季節の行事も取り入れて、スタッフも一緒に楽しんでいる。
- ③食材は企業や地元のボランティア、フードバンクなどから提供を受けている。また野菜はしあわせ村農園や有機農園から格安で仕入れている。
- ④発足より5年が経過、地域にも定着、寄附や食材を提供いただく方や団体も増えてきた。



2) 「みんなの食堂」の効果

- ①子どもと地域や高齢者が将棋や話をするなど地域の良い交流の場になっている。
- ②子どもも高齢者もスタッフにとっても、良い“居場所”になっている。
- ③野菜の名前を覚え、野菜を食べる子どもが増えるなど“食育”の場になっている。
- ④地域の一人暮らしの高齢者が元気になり、毎回の開催を楽しみにしてくれている。
- ⑤子どもに“夢や希望”を与えられる場になればと期待する。



3) 「英語学習」支援活動

- ①2020年度から小学3年生に「外国語活動(英語)」が前倒し導入された。これを機に、英語学習のお手伝いをすることにした。対象は小学1年生～6年生、2019年11月より開始した。
- ②初めて英語に接する子どもたちが、“英語は楽しい”と思ってもらえるように、歌やダンスや簡単な会話などネイティブな発音の動画を取り入れた学習内容にしている。
- ③現在は月1回の開催であるが、今後、月2回に増やしていく計画。
- ④スタッフは上田尚男、長浜速雄、藤原俊雄、前川宏睦、中川周平、上田廣子、長浜みち代、和佐信行が担当している。

◆2019年迄
・5・6年生を対象に「外国語活動(英語)」として行われてきた。

◆2020年～:
*3年生、4年生
・「外国語活動」(教科書無し)
・授業時間:年間35時間

*5年生、6年生
・「教科」(教科書有、成績評価有)
・授業時間:年間70時間



英語学習
2年生3人 「なかみち・こみち」
2年生2人
1年生
見学のお母さん



4) 今後に向けて

- ①みんなの食堂の開催場所を増やしていく。そのために“空き家”などの場所を探す。
- ②朝食を食べない子、食べれない子への食事提供ができないか? 地区の開放委員会とも連携。
- ③ヤングケアラーと呼ばれる子どもや心の貧困を持っている子どもの発見と行政への連携。
- ④みんなの食堂も英語支援も、活動継続のため、後継者 特に若いスタッフを求めている。

5) 私たちの思い

- ①全ての子どもが、健全な発育の場と教育の機会がもてるために、私たちにできることはする。
- ②地域に暮らす子どもたちと、私たち大人が時間を共有しながら、信頼される大人になること。
- ③厳しい世の中で、食育や温暖化、環境問題などを子ども達に分かりやすく伝える語り部になる。
- ④私たち世代の負の遺産を次世代に残さないとの決意で、身近な問題に取り組む大人であること。

8-3 コウノトリ米の販売支援活動

SGSでの「コウノトリ米」販売の取り組みは2005年から始まっています。

当時はブランドは浸透しておらず、販売先の開拓と同時に配達業務も行いかなり苦勞をされたようです。現在は、コウノ鳥の繁殖数の増加と共に、豊岡での減農薬米・無農薬米、共にブランドとしてかなり浸透してきました。

現在の我々の活動は、現地の根岸謙治様を通じて注文書を、SGSの現役生・卒業生・関係者の皆様に総務担当から注文書を送付して購入希望者に直接注文を行って貰う方式を取っています。

・コウノトリ米の栽培の特徴

1. 無農薬栽培・減農薬栽培：農薬を全く使用しない無農薬栽培と田植え時期に1回使用する減農薬栽培がありますが、化学肥料は一切使用しません。
2. 冬季湛水：冬にも田に水を張ると、生物多様性が維持でき、また上空から目立つため、鳥が飛来しやすい、春先には微生物を育む効果がある。
3. 中干しの延期：一ヶ月程中干しの実施を延期すると、コウノトリの餌になるカエルが変態でき、死滅を防げます。
4. 米糠の使用：田圃の微生物を増殖させるとともに雑草の成長を抑制します。

これらの施策は、農薬・化学肥料の不使用によってコウノトリの餌となる魚や、小動物を復活させてコウノトリの生息出来る環境を作ると同時にコウノトリ米を食べる人たちの健康を守るためです。

・購入数量の推移（2005～2022年）

年度	精米(kg)	玄米(kg)	合計(kg)	年度	精米(kg)	玄米(kg)	合計(kg)
2005年	400	0	400	2014年	1040	630	1670
2006年	400	0	400	2015年	865	1055	1920
2007年	405	0	405	2016年	850	1035	1885
2008年	480	200	680	2017年	590	980	1570
2009年	1040	0	1040	2018年	505	1270	1775
2010年	1040	175	1215	2019年	470	555	1025
2011年	1180	350	1530	2020年	480	625	1105
2012年	1085	350	1435	2021年	395	395	790
2013年	1160	425	1585	2022年	390	500	890

8-4 大屋町ごちそう祭りの支援

おおやごちそう祭りにボランティアとして参加

養父市大屋町の「おおやごちそう祭り」は2009年（平成21年）から地元の食材をPRしようと9月に開催されており。神戸シルバー大学院は第1回から保田 茂学長からのおすすめも有り、参加させて頂いておりました。主催はおおやごちそうの会と養父地域局の皆さんです。大屋町で活動している「農村に生きる女性たちの勉強会」が母体で、保田 茂学長の村おこしの話をきいて、自分たちの出来る活動をしようと始まったそうです。私たちは毎年1台のバスを貸し切って楽しく参加して参りました。

最近では2014年・2015年・2016年・2017年にも参加2018年には台風で中止。2019年にも参加致しましたが、以後は規模を縮小するとのことで私たちも休止しております。地元のお米をカマドで炊いて、地元野菜のかき揚げなどを食べて、野菜の販売や子ども遊びなども手伝って参りました。保田学長の講演会も毎年実施されておりました。

2015年



2016年



2017年



2019年

【感想文】

神戸シルバー大学院

作成者	氏名	藤本 靖子	()期生	15
行事名	おおやごちそう祭り		参加人数	52名
実施日	H 1 年 9 月 29 日 (日)			
場 所	兵庫県養父市大屋町			
感 想	<ul style="list-style-type: none"> ・心配していたお天気が好転してよかったが時期のわりに暑かった。 ・ボランティア今回2回目の参加だったが、前回と違う野菜販売を経験出来て楽しかった。 ・地元のお客さんが、少ないように感じた。 ・さすが大屋の新鮮野菜の安心安全な食材をお昼に味わせてもらい美味しかった。そのうえお土産までいただき恐縮した。 ・10周年の主催者の方がたのご苦労をつくづく感じ、頭の下がる思いだった。 ・最後の挨拶の中で、来年からの規模縮小して開催する話にびっくりした。 ・同時開催の「木彫フォークアートおおや」の展覧作品を今回は見学する時間があり、個人的に興味があったので楽しむことができた。 			
*できるだけ箇条書き				
良かった点	<ul style="list-style-type: none"> ・ただボランティアの仕事をこなすだけでなく、今回は野菜出展の移住者の若奥さんと子育て相談のようなお話をすることがあった。初対面の私たちに声をかけてくださった事が嬉しく、人と人が触れ合い温かい気持ちになれたことが良かった。 			